

東日本大震災 宮古市の記録

第1巻《津波史編》概要版



岩手県宮古市

東日本大震災 宮古市の記録

第1巻《津波史編》概要版



表紙写真説明（上から）

- ・明治 29 年三陸地震津波 楸ヶ崎 日立浜 (本文 71 頁)
- ・昭和 8 年三陸地震津波 田老尋常小学校 (本文 78 頁)
- ・昭和 35 年チリ地震津波 高浜 現国道 45 号 (本文 86 頁)
- ・平成 23 年東日本大震災津波 市役所から築地を望む (本文 12 頁)



刊行のごあいさつ

宮古市長 山本正徳

このたび、「東日本大震災 宮古市の記録 第1巻 津波史編」概要版」の発刊にあたり、改めてこの震災により犠牲になられた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。

また、平成23年3月11日の発災から、早3年余が経過しましたが、今日まで国や県、県内外の自治体、団体、ボランティアの方々にも多大なご支援、ご協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

当市は、平成24年7月に宮古市東日本大震災復興計画を策定し、「すまいと暮らしの再建」「産業・経済復興」「安全な地域づくり」の3つを復興の柱に据え、復興に向けて取り組んでいるところです。3本柱の中の「安全な地域づくり」では「災害記憶の後世への継承」を方向性として位置付け、震災記録を保存・作成し、情報発信することとしております。

今回の第1巻概要版の内容ですが、「第1部 東日本大震災」では、広報みやこの「写真特集 津波」や東日本大震災における地震、津波、被害の概要等の各種データを収録しております。次に「第2部 資料編 歴史津波」では、過去の当地方における津波被害の写真を掲載し、各種史料・文献から地震津波年表を作成しました。

本記録誌は、当市における津波災害の記録集・データ集として、災害に強いまちづくりの研究や、防災意識の啓発・教育活動に末永く活用されることと思えます。

末筆となりますが、本記録誌作成にあたり、ご尽力いただいた宮古市東日本大震災記録編集委員会の神田より子委員長並びに南正昭副委員長をはじめとする委員の皆様、また、各種資料・記録の収集にあたりご協力いただきました関係機関の皆様にも厚く御礼を申し上げます、刊行のごあいさつといたします。

平成26年9月

刊行にあたりごあいさつ

宮古市東日本大震災記録編集委員会委員長

敬和学園大学 人文学部教授 神田 より子

『東日本大震災 宮古市の記録 第1巻 《津波史編》』刊行にあたり、震災によって犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また未だにご苦勞をされている皆様に御見舞を申し上げ、一日も早く日常の生活を取り戻せますようお祈りいたします。

私は自分自身の研究のため、宮古市との関わりが30年に及んでおります。そうした中で多くの友人や知人がこのたびの大震災で被災され、他人事ではないという個人的な思いから、この事業に参加させていただくこととなりました。

今回の宮古市東日本大震災記録編集委員会では、『東日本大震災 宮古市の記録 第1巻 《津波史編》』に引き続き、平成27年度に『東日本大震災 宮古市の記録 第2巻』の刊行を予定しています。私どもは主に民俗学の方法により、様々な立場の方々から、そのときどう行動したのかといった被災の体験、どう行動すればよかったのか、廻りの方々にどう行動してほしかったのかという実体験を踏まえたお考えを伺っています。そして現場での対応の仕方、後方支援のあり方などを、お一人お一人から聞き書きをし、皆様方の記憶を記録する事業を行っております。

私どもの活動は聞き書きをするだけではなく、これまで書かれた皆様方の体験記も掲載する予定で、それらの収集も行っています。また震災当時の映像（ビデオ映像と写真）も、アーカイブ化して保存したいと考えています。そのため、当編集委員会では多くの研究仲間だけではなく、地元NPO法人「立ち上がるぞ！宮古市田老」の方々や、月刊タウン誌『みやこわが町』の皆様方も協力して取材活動を行っています。この記録が、今回の災害を乗り越えて宮古市が災害に強い町となる一助となりますよう努力する次第です。

皆様方が一日も早く普通の日常生活に戻れますよう祈念しつつ、更なる取材活動を行って参りたいと思います。

宮古市の復興を願って

宮古市東日本大震災記録編集委員会副委員長

岩手大学 工学部社会環境工学科教授 南 正昭

東日本大震災から早3年が経過しました。未曾有の大震災により、ここ宮古市にも甚大な被害がもたらされました。幾多の尊い命が失われるとともに、多くの建築物や施設が被災、流失し、地区によっては街の姿が大きく変化してしまいました。

その後、被災地では計り知れない苦しみや悲しみを受け止めつつ、日々の生活を続けて来られています。その中でこれからの生活、街の姿を描き出し創り出していくために、住民、行政、支援者らが幾度も話し合いを重ねながら、復興に向けた計画の策定や実践を進めてきています。

この悲しみを受け止めつつ、次の生活を創り出すべく歩みだす、宮古の人々の姿を歴史に記録として残すこと、それがこの度の宮古市史編纂の主要な役割だと思われます。津波災害の猛威について、津波防災・減災のあり方について、災害に負けないまちづくりについて、復興の計画づくりや進め方について、長い将来にわたり人類が学ぶ記録になることでしょうか。この大災害から人々が生活を切り開いて行く姿から、私たちは人として、また社会として掛け替えのないものを学ぶことになるでしょう。

今後、わが国に起こりうる大災害に対して、個人や世帯、地域社会、都市基盤施設や法制度等々について、どのような対策を事前にとっておけば良いのか、万が一また大災害が起こったときにどう対処すれば良いのか、学ばせてもらうことになるでしょう。同時に、東日本大震災により犠牲になった多くの方々の命の尊厳を、鎮魂の念とともに思い起こすことになるでしょう。

この度、大震災以前からのほぼ10年にわたる宮古とのご縁により、宮古市歴史編纂の役割の一端を務めさせていただくことになりました。津波防災の街としてよく知られてきた田老地区には、学生とともに度々訪れ、学ばせていただきました。土地の標高や居住者の分布状況を調べ、大震災直前の2011年1月には100名以上の住民の方々に参画していただき、一人ひとりにあった津波避難のための訓練の取り組みを始めたばかりでした。

宮古が向き合ってきた津波防災への道のりは、これからも続くこととなります。この持続的な取り組みが、人類の叡智となり希望となることを心から祈念したいと思います。

東日本大震災 宮古市の記録 第1巻 津波史編 概要版 | 目次 |

刊行のごあいさつ	宮古市長 山本 正徳	3	3
刊行にあたりごあいさつ	宮古市東日本大震災記録編集委員会委員長 敬和学園大学 人文学部 教授 神田より子	4	4
宮古市の復興を願って	宮古市東日本大震災記録編集委員会副委員長 岩手大学 工学部 社会環境工学科 教授 南 正昭	5	5
3	宮古市東日本大震災浸水図	38	38
4	東日本大震災に伴う対応状況	63	63
5	東日本大震災による死者数及び行方不明者数	65	65
6	東日本大震災による家屋倒壊数	66	66
7	東日本大震災による被害推計総額	67	67
9	第2部【資料編】歴史津波	71	71
11	写真特集 津波（広報みやこ平成23年6月1日号）	72	72
24	1 地震と津波の概要	78	78
24	(1) 地震の概要	84	84
27	(2) 津波の概要	88	88
31	2 被害の概要	90	90
31	(1) 浸水と地盤沈下	93	93
31	(2) 人的被害と建物被害	100	100
31	(3) 宮古市の被害概要	100	100
72	(写真) 明治29年三陸地震津波		
78	(写真) 昭和8年三陸地震津波		
84	(写真) 昭和35年チリ地震津波		
88	(写真) 昭和43年十勝沖地震津波		
90	第2部【資料編】歴史津波 解題		
93	宮古地方地震津波年表		
100	津波の高さと被害		
100	(1) 昭和8年三陸地震による津波の高さ		

(2)	明治29年三陸地震津波による被害(県別)	102
(3)	昭和8年三陸地震津波による被害(県別)	102
(4)	明治29年三陸地震津波による被害(岩手県)	103
(5)	昭和8年三陸地震津波による被害(岩手県)	104
(6)	津波浸水高表	108
(7)	チリ地震津波による市町村別被害(岩手県)	109
(8)	チリ地震津波による人的被害(岩手県)	109
(9)	チリ地震津波による家屋被害(岩手県)	110
	参考文献	111
	宮古市東日本大震災記録編集委員会	113

